



岩国医療センターだより

2022年9・10月号 VOL.143

ご自由にお持ちください。



当院 臨床検査科 血液像の顕微鏡検査

ご
こ
せ

① 特集【皮膚科だより】 皮膚科のご紹介

③【看護部だより】
手術室の紹介

④【緩和ケアだより】
緩和ケアにおけるリハビリテーション

⑤【臨床検査科だより】
ISO 15189 認定取得までの道のり

⑦【かかりつけ医のご紹介】 中村クリニック

独立行政法人国立病院機構
岩国医療センター
発行・制作：広報委員会

〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1番1号
TEL 0827-34-1000 / FAX 0827-35-5600

岩国医療センター 検索 <https://iwakuni.hosp.go.jp>

特集

皮膚科のご紹介



皮膚科 医師 **池田 賢太** いけだ けんた

はじめに

当科では、皮膚科全般の診療を行っています。診断が難しいケース、重症な皮膚疾患、手術が必要なケース、さらに診断はついたが良くならないケースなど地域の診療所の先生方からの紹介をお受けしています。

皮膚疾患は目に留まりやすく、痒みや痛みなど患者さんの苦痛やストレスは大きくなりやすいです。適切な治療により皮膚の状態が改善するように丁寧に患者さんと向き合い、安心して通院して頂けるような皮膚科を目指しています。

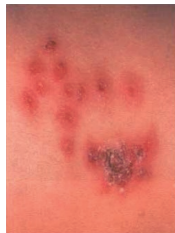
皮膚疾患

よくある皮膚疾患

アトピー性皮膚炎、手湿疹、皮脂欠乏性湿疹、脂漏性皮膚炎、接触皮膚炎(かぶれ)、尋常性疣贅(イボ)、伝染性膿痂疹(とびひ)、凍瘡(しもやけ)、帯状疱疹、単純ヘルペス、じんましん、尋常性ざ瘡(にきび)、白癬(水虫)、胼胝(たこ)、鶏眼(魚の目)など



アトピー性皮膚炎



伝染性膿痂疹(とびひ)



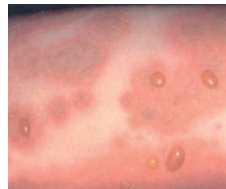
帯状疱疹



尋常性ざ瘡(にきび)

稀な皮膚疾患

尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、円形脱毛症、血管炎、尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、サルコイドーシス、膠原病(SLE、皮膚筋炎、強皮症)など



水疱性類天疱瘡



尋常性乾癬



掌蹠膿疱症

良性腫瘍

表皮嚢腫(粉瘤)、石灰化上皮腫、脂肪腫、血管腫、色素性母斑(ほくろ)など



表皮嚢腫(粉瘤)

悪性腫瘍

有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫など



有棘細胞癌



基底細胞癌



悪性黒色腫

皮膚科で行う検査

血液検査、皮膚生検（病理組織検査）、KOH 顕微鏡検査、ダーモスコピー、画像検査 などがあります。

治療

外用（塗り薬）



患部に直接薬を塗ることで
症状を抑えます

副腎皮質ステロイド剤：湿疹、かぶれ
 抗菌薬：とびひ、にきび
 抗真菌薬：水虫、カンジダ
 ビタミン D3：乾癬
 保湿剤：アトピー性皮膚炎、皮脂欠乏症

内服（飲み薬）



血中から全身に薬が届くことで
外用より広い範囲に
効果をもたらします

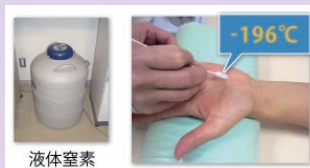
免疫抑制剤：自己免疫疾患
 抗アレルギー薬：アレルギー、じんましん
 抗菌薬：蜂窩織炎^{ほうかしきえん}、とびひ、にきび
 抗真菌薬：爪水虫
 抗ウイルス薬：単純ヘルペス、帯状疱疹など

光線治療

特定の波長の紫外線を当てることで
皮膚の炎症を抑えます

凍結療法

液体窒素を当てることで
きれいな皮膚を再生させます



液体窒素

手術

皮膚腫瘍を切除します



生物学的製剤

最先端のバイオテクノロジーにより
創薬された、疾患の原因となる分子を
直接抑制する薬剤で、
高い有効性が特徴的です

診療体制

皮膚科は週 4 日外来診療を行っています。蜂窩織炎や水疱症、重症薬疹、悪性腫瘍などでは必要に応じて入院治療も行います。水曜日には手術を行っており、形成外科の医師と連携をとっています。

近年、難治性疾患に対して生物学的製剤が多数登場しています。当院ではアトピー性皮膚炎に対してデュピルマブの導入・維持を行っています。難治性じんましんに対してはオマリズマブによるコントロールを行っています。また乾癬に対する様々な生物学的製剤については、近くの総合病院と連携をとりながら導入後の維持を行っています。効果や適応、費用、使用方法などご不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。

医療関係者の皆様へ

お問い合わせは地域医療連携室へお願い致します。予め連絡して頂くことで患者さんの診療情報を事前に共有でき、円滑な診療が可能となり患者さんのご負担が減ります。

ご来院される皆様へ

診察をご希望される方は、まずかかりつけ医にご相談ください。かかりつけ医から紹介状を作成してもらい、事前に当院の診療予約をとることで、スムーズな診療が受けられます。紹介状なしに初診で受診する場合、通常の医療費とは別に選定療養費を頂くこととなりますので、ご了承ください。





手術室の紹介

手術室看護師長 村川 紀雄



【ハイブリット手術室】

岩国医療センターでは、外科、心臓血管外科、脳神経外科、胸部外科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産科、婦人科、形成外科、眼科、皮膚科の手術を行っています。ハイブリット手術室を使用した手術や、手術支援ロボットを使用した手術、腹腔鏡や胸腔鏡を使用した低侵襲



の手術を含め、年間約 3700 件の手術を行っており、3 次救急医療機関として 24 時間緊急手術に対応できる

体制をとっています。手術室看護師は患者さんが安心して手術を受けられるよう心理的支援を行っています。医師と協力して手術の安全性を確保し、最良の手術の提供に努めています。

術前看護

当院では手術室看護師が特殊な体勢で手術を受ける患者さんの病室に行き、手術の流れの説明や、手術に対する不安や心配に対する心理的支援を行っています。



【患者さんのお名前を確認しています】

術中看護

手術は外回り看護師と器械出し看護師の 2 名で対応します。外回り看護師の役割は、患者さんの安全と安楽を確保することです。麻酔前の緊張した患者さんの不安を和らげることができるよう声掛けを行っています。

麻酔導入後は、手術が終わって患者さんが目を覚ました時に、体位による体の痛みを感じることがないように無理のない体位を取りつつ、手術が安全に行えるように体位を整えています。手術終了後は、WHO の手術安全チェックリストを使用して体内に手術で使用した器械やガーゼなどが残っていないかを医師と共に確認しています。



【手術の介助をしています】

器械出し看護師の役割は、手術が安全で円滑に進行するように、手術操作に合わせて必要な手術器械、手術材料を的確に迅速に手渡して介助することです。

器械出し看護師は手術に使用する器械、材料の滅菌期限、汚染、破損がないことを確認し、安全に手術が行えるように準備をしています。手術が始まれば、術野から目を離さず、手術の進行状況を把握し、状態変化に対応できるようにしています。

今後は、手術後の患者さんの病室に手術室看護師が行き、手術後の経過や手術中に行った看護の評価をする術後訪問を行っていきたくと思っています。

また、手術室看護師は進歩する手術に対応するため、毎月 2 回勉強会等を開催し、研鑽を重ねています。緊急手術が重なり大変なこともありますが、手術が無事に終わり、患者さんやご家族の安心した顔をみると、やりがいを感じます。

これからも地域住民の皆様に信頼される手術室でありたいと思います。



緩和ケアにおける リハビリテーション

リハビリテーション科
理学療法士 清原 宏



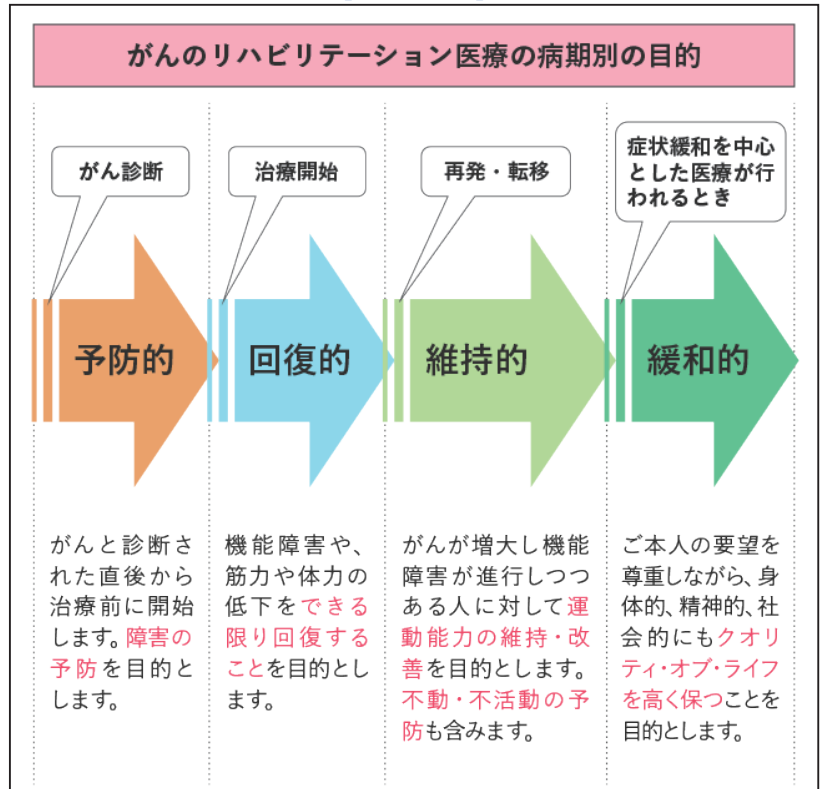
【図1、1）】

がんのリハビリテーション医療は予防的、回復的、維持的、緩和的の4つの時期に分けられリハビリテーション医療の目的や役割が異なります。(図1)

今回は緩和的な時期のリハビリテーションについてお話しいたします。

この時期はがんの進行とともに体力が低下したり疼痛などの症状が出現して自分で動くことが難しくなり、日常生活動作も今までのようにはいけなくなることもあります。「そのような時期にご本人の要望を十分に尊重し、残っている能力をうまく生かしながら身体的、精神的、社会的に生活の質を高く保つことを目指してリハビリテーション医療が行われることがあります(緩和的リハビリテーション)。」¹⁾

当院では具体的に以下のようなリハビリテーションを実施します。



日常生活動作・基本動作・歩行などの能力の維持や向上

- 筋力低下予防のためのトレーニング
- 歩行などの実際の日常生活などを考慮した応用練習
- 補助具の選定や環境整備の相談



疼痛や呼吸症状の緩和

- ポジショニング
- ストレッチ
- リラクゼーション



浮腫の予防・改善・症状緩和

- 適度な圧迫
- 運動、生活指導
- リンパドレナージなど

心理支持

- アクティビティー
- 日常会話や訪室
- 家族への介助指導

当院リハビリテーション科には理学療法士20名、作業療法士8名、言語聴覚士4名が在籍しており、各専門スタッフが対応させていただいております。

患者さん個々の症状に対して工夫、相談しながらQOL(生活の質)向上、ご家族の不安軽減などの一助となり、今後の生活に寄与できる良質な医療を提供するよう心掛けています。

1) 引用・参考

国立がん研究センターがん情報サービス

【がんリハビリテーション医療】

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/rehabilitation/index.html

臨床検査室
認定

ISO 15189

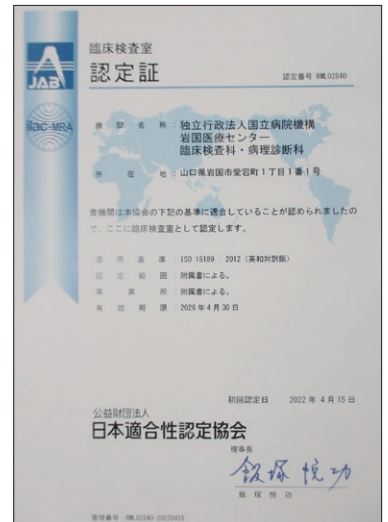
今年4月に
認定されました

認定取得までの道のり

副臨床検査技師長 後藤 象悟

NHO 岩国医療センター 臨床検査科・病理診断科は国際規格「ISO 15189 (臨床検査室 - 品質と能力に関する特定要求事項)」に基づき、第三者機関である日本適合性認定協会 (以降 JAB という) の審査が行われ、臨床検査を行う能力を有していることを 2022 年 4 月 15 日付けで認定されました。

今回はキックオフミーティングから認定取得までの道のりについて書いていきたいと思えます。



【認定書】

① 運用 → ② 審査 → ③ 認定

① 運用

運用開始まで

2020 年はコロナ禍始まりの年であったため、4 月 23 日のキックオフミーティングはコンサルティング会社と ZOOM を用いたオンライン形式で行いました。その際、ISO 15189 の要件に沿った臨床検査室の“運用開始を 2021 年 2 月”とすることを決定し、“2022 年 4 月の認定取得”までの慌ただしく追い込まれる日々が始まりました。

2019 年にこの認定取得を目指していくこととコンサルティング会社は決定していました。2020 年 4 月 1 日、私は古巣である岩国医療センターに副臨床検査技師長、そして品質管理者として戻ってきました。

同年 5 月に ISO 15189 規格説明会、6 月 文書作成・運用ルールの決定などの講習、8 月 NHO 福山医療センター見学、10 月 測定不確かさに関するセミナー受講、11 月 内部監査員養成セミナー受講など、運用開始に向けて色々なことを勉強していきました。

また、運用開始までには品質マニュアル、各種手順書、記録となる様式、部門ごとの標準作業手順書等の作成が必要です。各種手順書や環境管理、機器管理、冷蔵庫・冷凍庫の温度管理、精度管理など膨大な数の様式を手順書に合わせて作成するため、当院は主任技師をリーダーとするワーキンググループでの活動を行うこととしました。この当時は ISO 15189 への理解が乏しいことや多忙な日常業務を行いながらの作成であることから、コンサルティング会社から提示された工程表からはずいぶん遅れていきました。それでも 2021 年 2 月の運用開始までにはなんとか形にして間に合わせ、さらに慌ただしく追い込まれる日々が続きました。

運用開始後

2022 年 3 月までに認定取得を目指すことにしたため、第 1 段階審査の受審を 2021 年 9 月、第 2 段階審査を遅くとも 1 月と青写真を描き、申請に向けて動き始めました。

2021 年 4 月 2 日にコンサルティング会社による模擬内部監査、4 月 5 日～23 日にかけて初めての内部監査を行いました。是正処置期限は内部監査後 1 カ月以内と手順書には定めていたのですが、間にゴールデンウィークを挟んだことから予定通りに報告書が出てきません。期限を延長せざるを得なかったため、初めて作成した是正処置報告書はどれも訂正印だらけでした。今となっては良き？思い出なので綺麗にファイリングして何時でも手に取れるところに置いてあります。

5 月の中旬にマネジメント会議、申請手続きの予定を決めたのですが、そこからマネジメント会議のインプット情報をまとめ、評価記録として形作るのにもものすごく時間を要しました。毎日のように上がってくる報告や記録はコツコツとまとめておくことが重要だと痛感しました。が、未だに出来ていないことの一つでもあります。

6 月にマネジメント会議を終え、いよいよ申請手続きです。7 月に申請書類を提出しましたが、不備があったため改めて 8 月に再提出し無事に受理されました。

臨床検査室認定とは…

臨床検査室認定とは、臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、病理学的検査など）を実施する臨床検査室の技術能力を証明する手段の一つで、臨床検査室の審査を行い、臨床検査を行う能力を有していることを認定します。…JAB サイトより

② 審査

第1段階審査

9月24日に第1段階審査が行われました。午前中は1時間ほどのラボツアー（検査室の視察）、その後は16時まで申請した書類のチェックが行われ、16時半から終了会議が始まりました。

審査の結果、重大な不適合1、軽微な不適合4ということになりました。最初の是正処置期限は1か月。是正処置担当者は手順書の改定・周知、教育、設備の変更等、昼夜を問わず頑張り提出しましたが、すべての指摘に対して再提出が求められました。

ここから更にギアを上げて取り組み、2回目の提出では5つのうちの3つの指摘に対しての是正処置回答書が受理されました。最終的に12月、4回目の提出で残りの2つの是正処置回答書も受理され、無事に第1段階審査を終えました。

第2段階審査まで

第1段階審査の是正処置を行っていた最中の11月に第2回定期内部監査を行いました。今回は第2段階審査に向け、特に記録類の不備や齟齬がないかを重点的にチェックしました。

2022年1月には2回目のマネジメント会議を行い、できる限りのことをやり尽くして2月に行われる第2段階審査を迎えました。

第2段階審査

2月2日、6名の審査員が来院され13時から初回会議と書類審査が行われました。この日は現場での確認はなかったのですが、なんだかソワソワして落ち着きませんでした。



みんなで集合写真。一番右が筆者

2月3日と4日は現場にて運用システムや記録などの審査が行われ、同時に検査室管理主体（技師長）と品質管理者（筆者）はシステム審査に臨みました。以前、福山医療センターの定期サーベイランスを見学させて頂いた時の緊張感を思い出し、ついに来てしまったなーと内心ドキドキでした。その抱いていた緊張感はどこへやら、和やかな雰囲気の中淡々と質問を受け、必要な記録を提示し、あっという間に時間が過ぎていきました。

3日間の審査を終え、最終会議にて重大な不適合1、軽微な不適合13であることが報告されました。ここから1か月の是正処置期限の間が精神的にも肉体的にも非常に厳しく追い込まれた期間になりましたが、頑張った成果が出たのか、1回目の是正処置回答書の提出で8つが受理され、3月20日までにすべての是正処置回答書が受理されました。管理主体である技師長の異動が決まっていたので、何としてでも年度内に完了させたかった思いが叶った瞬間です。本当に良かった。

③ 認定

すべての審査を終えて

2022年4月15日、[NHO 岩国医療センター臨床検査科・病理診断科](#)は遂にISO 15189 認定施設となりました。NHOでは14施設目、山口県内では4施設目となります。

認定証と共に送られてきたポスターは当院のエントランス、生理機能検査室の中待合に掲示して頂きました。



これからに向けて

無事に終えてほっとしているところですが、定期サーベイランスはすぐにやってきます。取得より維持することの方が難しいと言われてますし、何よりPDCAサイクルを回して向上していかなければいけません。

転勤等でスタッフが入替わり中、今年は2名の転入者と4名の新入職者を迎えました。管理主体でも新人でも目指していく方向は同じだと思っていますので、これからも気を引き締めて頑張っていきたいと思います。

中村クリニック



院長 平野 雅俊 (ひらの まさとし)

副院長 平野 有美 (ひらの ゆみ)



岩国医療センターには、救急外来、専門科紹介、画像検査等でいつも大変お世話になっております。特に、救急外来のお願いをいつも受けていただき感謝に堪えません。

今後とも貴院との連携を通じて、それぞれの患者さんに最適な治療を提供していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

医院の特徴

一般内科を中心に診療を行っています。また、医師各自の専門性を生かして、糖尿病内科、呼吸器内科の診療にも力を入れています。近年は高齢社会を反映してか、訪問診療を要する患者さんが増えてきており、訪問診療も行っております。

健診および、各種予防接種も行っています。



診療で大切にしていること

患者さんの病気自体だけではなく、患者さんのご希望や価値観、家族背景も考慮しながら、最適な治療を提供できるようにしています。その実現のため、訪問看護ステーション、老健施設、介護施設、地域包括支援センター等の関連機関との連携を積極的に行っています。



対応可能な検査

レントゲン、心電図、超音波検査、血圧脈波検査、骨密度検査、睡眠時無呼吸症候群の検査等の各種検査を実施しています。

所在地 〒740-0061 山口県玖珂郡和木町和木 2-9-11

電話 (0827) 53-8100 **FAX** (0827) 53-8100

診療科目 内科、糖尿病内科、呼吸器内科

休診日 日曜日、祝日、木曜日午後、土曜日午後

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	×	○	×

